

神戸大学附属図書館  
平成29年度資料展

# 近代神戸の 航路をたどる

〜開港150年を迎えて〜

## 展示品目録

平成29年10月13日(金)〜12月19日(火)

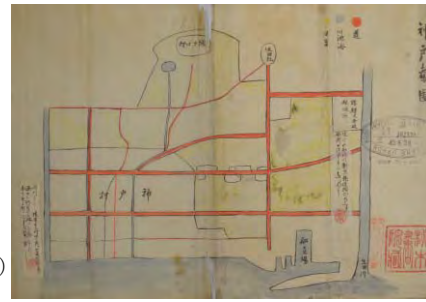
社会科学系図書館 2階展示ホール



写真:築港工事中の神戸港

# 1. 神戸、開港ス

1863年1月1日と定められた兵庫の開港は、5年後に神戸にて実現します。安政の五カ国条約や神戸海軍操練所、そして外国人居留地の成立と暮らしなど、開港の契機と実際の一端を紹介します。



神戸村圖 (部分)

No.	資料名	種類	発行年、出典資料	コメント	所蔵館
1-1	神戸村圖	地図		題箋に「明治維新前實況」と表記あり。船スエ場(船たて場)と海軍操練所が記載されている。外国人居留地となる村域の東は田畑と表現されていて、人家のない土地に居留地を造成したことがうかがえる。	住田文庫 (社会科学系図書館)
1-2	兵神市街之圖：新撰改正	地図	1880(明治13)年	1879(明治12)年、兵庫・神戸と坂本村を併せて、「神戸区」が設置された。「兵神」という表記には、「兵庫」「神戸」それぞれ別の町という意識の残存がうかがえる。海軍操練所の跡地の入堀は税関になっている。	住田文庫 (社会科学系図書館)
1-3	亜墨利加國條約並税則	版本	1859(安政6)年	安政5年に幕府が米蘭露英仏の5カ国と結んだ条約で「安政五カ国条約」と総称する。外国側に領事裁判権(治外法権)を認め、日本側の関税自主権の放棄などを盛り込んだ、日本にとって不平等条約であった。第3条にて開港場が取り決められ、兵庫開港は1863年1月1日とされた。5冊セットの版本のうち、「日米修好通商条約」の兵庫開港を記した箇所を展示。	住田文庫 (社会科学系図書館)
パネル	亜墨利加(同、魯西亞、佛蘭西、英吉利、阿蘭陀)國條約並税則				
パネル	五ヶ國條約：安政戊午條約書面 = The Japanese treaties, concluded at Jedo in 1858	図書	1862年	安政五カ国条約の本文に加え、巻頭に英語とオランダ語による解説を掲載してオランダのハーグで刊行したもの。	住田文庫 (社会科学系図書館)
パネル	英國倫敦覺書(ロンドン覚書)(1862(文久2)年)	条約	1977(昭和52)年 『法規分類大全』第22巻 外交門1	安政五カ国条約に含まれた、新潟・兵庫の開港と江戸・大坂の開市延期交渉のため幕府が派遣した文久遣欧使節がイギリスと締結したもの。開港開市の5年延長が認められた。	社会科学系図書館
パネル	絵図(岡山藩池田文庫)写(摂津國花熊之城圖)	地図		岡山藩初代藩主池田光政が、曾祖父池田恒興と祖父輝政による、荒木村重方の花熊城攻めの布陣の様態を家臣に描かせたものの写し。天正期と江戸初期のこの地域の様子を反映しているという。	神戸開港文書 (社会科学系図書館)
パネル	攝津國名所大繪圖	地図	1748(寛延1)年	摂津国全域の名所絵図で縦横120cmと大判のもの。パネルには神戸市中心部の部分を掲載。神戸村・二ツ茶屋村・走水村の村域は細長く一体化して表現されていて、兵庫は兵庫町と表記されている。	住田文庫 (社会科学系図書館)
1-4	新規船[たて]場取建願書之控	写本		網屋吉兵衛が、神戸村安永新浜に船たて[火偏に麥]場(虫食いや腐蝕を防ぐために船を引き上げ船底を焼き、付着する貝殻を除去するための乾ドック)の建設を願い出、完成させるまでの願書の控。	住田文庫 (社会科学系図書館)
パネル	操練所繪圖：神戸村	地図		勝海舟が神戸村に開設した神戸海軍操練所の地図で、所内の設備図と周辺図の2図から成る。所内の船たて場は網屋吉兵衛が建設したもの。操練所の敷地北東端に勝の屋敷も描かれている。	住田文庫 (社会科学系図書館)
パネル	御軍艦黒龍丸御修覆場御取建	写本		慶応2年に幕府の軍艦黒龍丸の修理のため、廃止された神戸海軍操練所跡地の船たて場を使用することとなり、幕府の奉行と神戸村とで交わした文書の控。	住田文庫 (社会科学系図書館)
パネル	兵庫港外国人居留地別紙附圖 [居留地の範圍地図](兵庫港並大阪に於て外国人居留地を定むる取極 1867(慶応3)年)	地図	1977(昭和52)年 『法規分類大全』第25巻 外交門4	取極の第1条で定められた、外国人居留地の範囲を示した地図。予定地の大部分が畑地や砂地であったことが分かる。また、この取極により、兵庫ではなく神戸を開港することが決定した。	社会科学系図書館
1-5	Government Land Sale(居留地競売予告)	文書		居留地の第3回競売(1870年5月16日)の予告書。競売の開催要項や対象区画の寸法・坪数などが記載されている。第3回では北部・東部の60区画が落札された。	神戸開港文書 (社会科学系図書館)
パネル	兵庫大坂外国人居留地約定書	文書	1868(明治元)年	「大坂兵庫外国人居留地約定書」とも。外国人による自治組織を認め、公共施設の維持管理を義務付けた。財政面では居留地積金の制度を定め、居留地警察の設置予算も認めている。	神戸開港文書 (社会科学系図書館)
1-6	HIOGO MUNICIPAL COUNCIL RULES(兵庫居留地規則)	文書		開催日や使用言語など、居留地会議の規則を定めたもの。居留地会議のメンバーは各国領事・住民代表(行事)・兵庫県知事で構成されていた。	神戸開港文書 (社会科学系図書館)
1-7	兵庫港遊歩規程圖	地図	1977(昭和52)年 『法規分類大全』第25巻 外交門4	開港場で外国人が自由に往来できる遊歩区域を定めた地図。兵庫の場合は京都から十里以内の区域を除き、各方角へ十里の範囲内が遊歩区域とされた。	社会科学系図書館

No.	資料名	種類	発行年、出典資料	コメント	所蔵館
パネル	無題(居留地公園所と称する土地につき一件)	文書	1872(明治5)年カ	旧生田川の西岸に「居留地公園」と記した棒杭を立てて土木工事を始めたことに対して、兵庫県令・権参事から居留地行事に送られた書翰。	神戸開港文書 (社会科学系図書館)
パネル	無題(遊園地敷地として道路縮小につき要請)	文書	1880(明治13)年	内外人公園地(現在の東遊園地)に隣接する道路が広すぎることから、その一部を公園の敷地に編入することを求める文書。	神戸開港文書 (社会科学系図書館)

## 2. 展開する神戸港

天然の良港であった神戸港は、開港以来順調に国の主要港の一つとしてその存在感を高めてきました。発展著しかった明治・大正時代の神戸港を、貿易・築港工事・造船業の3つの視点から概観します。



(日本郵船発着表) (部分)

No.	資料名	種類	発行年、出典資料	コメント	所蔵館
2-1	(日本郵船発着表)	新聞	『The Kobe Daily News』1905(明治38)年6月26日号	当時発行されていた英字新聞「The Kobe Daily News」1905年6月26日号に掲載された、日本郵船株式会社の発着表。	神戸開港文書 (社会科学系図書館)
2-2	(蒸気船買取に付き)	文書	1870(明治3)年	兵庫県御役所宛の蒸気船買取に関する書状。三菱財閥創始者岩崎弥太郎が高智藩の監督役として九十九商会(のちの三菱商会)で務めていたころのもの。	神戸開港文書 (社会科学系図書館)
2-3	神戸港ノ現状及改良策 [神戸]: [神戸市], [1906.6]	図書	1906(明治39)年	水上浩躬市長がまとめ上げ、関係者に送付した意見書。このような努力の甲斐があり、永年の課題であった神戸港築港が現実のものとなった。	社会科学系図書館
パネル	神戸築港計画図 市長案	地図	1906(明治39)年 『神戸港ノ現状及改良策』	水上市長が意見書の中で提案した築港案。細部において変更はあるものの、概ねこの案の通り実現された。	社会科学系図書館
パネル	築港工事中の神戸港	写真	1997(平成9)年 『新修神戸市史』歴史編4	築港工事中の風景。築港責任者に抜擢された森垣亀一郎は、オランダで学んだ「ケーソン工法」を、この工事に適用した。	社会科学系図書館
パネル	竣工後の突堤俯瞰図	地図	1936(昭和11)年 『神戸港概要』昭和11年版	1936(昭和11)年時点の突堤俯瞰図。西側の中突堤は、1920(大正9)年に起工した第二期修築工事により築造された。	社会科学系図書館
パネル	築港後の第一突堤付近	写真	1923(大正12)年 『神戸港大観』大正12年	この突堤の築造により、大型船の入港や荷の積み下ろしが飛躍的に効率化され、神戸港は名実ともに日本を代表する港となった。	社会科学系図書館
パネル	築港前の第一突堤予定地付近			突堤築造前の神戸港の様子。沖合に大型船が停泊しているのがうっすらと確認できる。荷の積み下ろしは舳(はしけ)を利用して行われていた。	
パネル	鉄道が乗り入れる第一突堤の様子			第一突堤に建造された上屋に隣接するようにして機関車が停車している。荷卸した積み荷を上屋で荷崩しし、そのまま機関車に乗せて背後地に輸送した。	
パネル	突堤鉄道敷設平面図	図面	1923(大正12)年 『神戸税関新設備報告』	第1突堤～第4突堤に敷設された、鉄道線の平面図。この鉄道網により、積み荷の背後地との連絡が飛躍的にスムーズになった。	社会科学系図書館
パネル	竣工を伝える新聞記事	新聞記事	『大阪朝日新聞』 1922(大正11)年5月15日	16年にも及ぶ修築工事は、1922(大正11年)5月、ついに竣工を見た。竣工式には多くの関係者が招かれ、大工事の成功を、市を挙げて盛大に祝った。	デジタルアーカイブ 新聞記事文庫
2-4	三菱造船株式会社、三菱内燃機製造株式会社、三菱電機株式会社[共編]『神戸に於ける三菱労働紛議』	図書	1921(大正10)年	争議団の発表した「最終宣言」によって、40日以上にもわたる大争議は、無条件就業という労働者側の事実上の敗北宣言で幕を閉じた。	社会科学系図書館
パネル	明治当時の川崎造船所	写真	1936(昭和11)年 阿部市助編著 『川崎造船所四十年史』	創業間もない頃の川崎造船所。この先、時流に乗って空前の成長を遂げる。日本を代表する重工業会社の一つ、川崎重工業株式会社の前身。	社会科学系図書館 ほか
パネル	貨客船 伊豫丸			当時の日本は大型船舶については殆ど輸入に頼っていたので、国内でこれほどの大型船の建造を受注するのは相当な大事業であった。	
パネル	竣工当時の乾船渠			着工から6年の歳月をかけて1902(明治35)年に竣工した。その大きさ、かかった期間、費用、全てにおいて当時の基準からすれば桁違いであった。	

No.	資料名	種類	発行年、出典資料	コメント	所蔵館
パネル	川崎造船所本工場配置図	図面	1928(昭和3)年 『主要造船工場設備概要』	写真の左上に「船渠」とあるのが乾ドックと思われる。当時専門家の中にはこの船渠の建造は軟弱な地盤のために全く不可能であるというものもいた。	社会科学系図書館
パネル	神戸の街を練り歩く争議団	写真	1921(大正10)年 『太陽』第26巻第8号	この川崎・三菱大争議は戦前における国内最大規模の労働運動とされる。争議団の中枢には、コープこうべの設立者でもある賀川豊彦もいた。	社会科学系図書館

### 3. 開港で広まった西洋文化

洋装や洋食など、開港をきっかけにもたらされた西洋文化が神戸でどのように広まっていったのか。当時の人々の暮らしの変化と、現在まで続く身近な文化を紹介します。



『西洋料理法獨案内』

No.	資料名	種類	発行年、出典資料	コメント	所蔵館
3-1	(日本人散髪の儀につき、黙許願)	文書	1873(明治6)年		神戸開港文書 (社会科学系図書館)
3-2	(此度御布令につき、日本人召使散髪の儀黙許伺)	文書	1873(明治6)年	居留外国人のA.O.ゲイ氏より県令神田孝平に宛てた日本人召使の散髪に関する依頼書と回答。「説論であり、命令ではない」と回答されている。	神戸開港文書 (社会科学系図書館)
3-3	(日本人断髪につき、説論すべき旨の書状)	文書	1873(明治6)年		神戸開港文書 (社会科学系図書館)
パネル	太政官布告第339号	法令	1889(明治22)年『法令全書(明治5年)』	1872(明治5)年11月12日に出された太政官布告第339号「大礼服及通常礼服を定め衣冠を祭服と為す等の件」により、政府役人の正装は洋服となった。	社会科学系図書館
パネル	開港当時の回顧	新聞記事	『神戸新聞』 1918(大正7)年1月1日	兵庫の有力者であった神田兵右衛門が開港から50年後に寄せた開港当時に関する記事。散髪に関する顛末が詳細に描かれている。	デジタルアーカイブ 新聞記事文庫
パネル	神戸に於ける女の髪風	新聞記事	『神戸又新日報』 1899(明治32)年1月3日	女性の髪形に関する記事。当時の流行を5つに分け、挿絵を豊富に入れて紹介している。結髪、束髪ともに人気があったことがわかる。	人文科学図書館
パネル	(招待状)	文書	1893(明治26)年	オリエンタルホテルで行われた晩餐会の招待状。宛先は不明。差出人は当時のイギリス領事であったJ.J.Enslie。	神戸開港文書 (社会科学系図書館)
パネル	海岸通6番のオリエンタルホテル	写真	2003(平成15)年 『神戸のハイカラ建築：むかしの絵葉書から』	1907(明治40)年、海岸通6番に公募により決定したドイツ人ゲオルグ・デ・ラランダー設計による新館が竣工し、移転した。	社会科学系図書館 ほか
パネル	明治前期における耕牛・耕馬の分布と牛馬耕普及の地域性について	図版	1994(平成6)年 『歴史地理学』169号	明治前期、東日本では主に馬を使って農耕を行っていたため、牛自体が少なかった。対照的に西日本では広く牛を使っていたことがわかる。	歴史地理学会HPより
パネル	The butcheries, Homoco	新聞記事	『The Far East』 1870(明治3)年12月16日	横浜で急増する外国人への牛肉提供に関する記事の一部分。「この地方(兵庫と大阪)の牛肉は調達可能なもののうち最高の品質である。」	社会科学系図書館
パネル	[牛馬問屋并牛乳売所 守谷類造]	挿絵	1884(明治17)年 『豪商名所獨案内の魁：兵庫縣下有馬武庫菟原』	「神戸牛」を開東に広めた小野濱の牛馬問屋である守谷類造の店。特約を結んでいた横浜のイギリス人キャベアーは英国政府より肉牛取扱を命じられていた。	人文科学図書館
パネル	[関門月下亭]、[飯田精肉店]	挿絵	1882(明治15)年 『湊の魁：豪商神兵』	『湊の魁：豪商神兵』は挿絵と事業主名で構成された商工名鑑。詳細な挿絵は当時の神戸の雰囲気をよく伝えている。	企業資料総合センター
パネル	[かうひい]	挿絵・記事	1800(寛政12)年『長崎聞見録』	京都の蘭方医廣川舜が長崎滞在中に見開きた祭りや風習、外国の動植物などを挿絵入り記したもの。コーヒーは効能とともに紹介されている。	住田文庫 (社会科学系図書館)
3-4	片山淳之助著『西洋衣食住』	図書	1867(慶応3)年	福沢諭吉は幕末に3回海外渡航し、積極的に西洋文化に関する著作を発表した。この本は片山淳之助のペンネームで衣食住を挿絵とともに紹介している。	住田文庫 (社会科学系図書館)
3-5	近藤堅三編『西洋料理法獨案内』	図書	1886(明治19)年	食器や調理器具の図説、肉や魚、野菜等の食材の説明、調理方法、西洋の宴会の概要に至るまで西洋の食に関して広く紹介されている。	住田文庫 (社会科学系図書館)
3-6	假名垣魯文編『西洋料理通』3巻	図書	1872(明治5)年	横浜居留地に住むイギリス人が日本人使用人に料理を作らせる時の手控え帳を基に魯文が執筆した。西洋料理を本格的に紹介した初めての本といわれている。	住田文庫 (社会科学系図書館)

No.	資料名	種類	発行年、出典資料	コメント	所蔵館
パネル	西澁生著『西洋風俗記』	図書	1887(明治20)年	一問一答形式で西洋事情を紹介した新聞の連載記事を元にした書籍。内容は生活習慣、娯楽、海外の名所など多岐にわたる。	住田文庫 (社会科学系図書館)
パネル	共立女子職業学校櫻友会裁縫研究部編『裁縫新教科書』	図書	1919(大正8)年	明治～大正時代に出版された裁縫本も洋装の普及を促進した。この本にはミシンの使い方や男性と子どもの洋服の作り方が和服と合わせて掲載されている。	人間科学図書館

## 4. 神戸の歴史を知るために

開港から150年の間に神戸のまちには様々なできごとや変化がありました。その歩みを年表と画像で振り返るとともに、当時の資料について調べられる神戸大学デジタルアーカイブについても紹介します。



管理棟屋上から市街を望む

No.	資料名	種類	発行年、出典資料	コメント	所蔵館
額装	青山大介作『港町神戸今昔鳥瞰図：神戸開港150年メモリアル：2017&1868』	地図	2017(平成29)年	開港150年を記念して描かれた鳥瞰図絵師・青山大介氏による現代神戸の鳥瞰図。	震災文庫 (社会科学系図書館)
パネル	操練所繪圖：神戸村	地図		サブテーマ1「神戸、開港ス」で既出。デジタルアーカイブにて画像が閲覧できる。	デジタルアーカイブ 住田文庫、神戸関係の資料と地図
パネル	兵神市街之圖：新撰改正	地図	1880(明治13)年		
パネル	(此度御布令につき、日本人召使散髪の儀黙許伺)	文書	1873(明治06)年	サブテーマ3「開港で広まった西洋文化」で既出。デジタルアーカイブにて画像が閲覧できる。	デジタルアーカイブ 神戸開港文書
パネル	(日本人断髪につき、説諭すべき旨の書状)	文書			
パネル	神戸の米騒動	新聞記事	『神戸又新日報』 1918(大正7)年8月23日	大正7年に富山で始まった米騒動は瞬く間に全国的に広まっていった。神戸もその例外ではなく、多数の商店や個人が被害を受けたことが分かる記事。	デジタルアーカイブ 新聞記事文庫
パネル	神戸新聞社へ放火す	新聞記事	『大阪朝日新聞』 1918(大正7)年8月14日	大正7年の米騒動では鈴木商店が米の買い占めを行っている噂され、放火された。記事の内容から当時の市内における混乱ぶりが分かる。	デジタルアーカイブ 新聞記事文庫
パネル	日本労働史に記録を残した三萬五千の大示威行列	新聞記事	『大阪朝日新聞』 1921(大正10)年7月11日	大争議の象徴的な出来事である大示威行列について報じたもの。神戸だけではなく、阪神地方の労働者達が応援に駆け付け、神戸市中を練り歩いた。	デジタルアーカイブ 新聞記事文庫
パネル	川崎造船所[編]『怠業中松方社長對職工側委員會見録並営業時間及賃銀改正ニ關スル顛末』	図書	1919(大正8)年	川崎造船所所で発生した大規模な労働争議の記録をまとめた資料。デジタルアーカイブからその全文を閲覧できる。	デジタルアーカイブ 「近代化産業遺産」 指定資料
パネル	神戸を適當と認む	新聞記事	『日華新報』 1923(大正12)年9月15日(873)	唯一生糸を輸出していた横浜港が開東大震災で甚大な被害を受けたため、神戸港に生糸取扱いの許可がおりた。これは神戸港の繁栄の大きな礎となった。	デジタルアーカイブ 『日華新報』(中外貿易機関)
パネル	港の祭に贈る	新聞記事	『神戸新聞』 1937(昭和12)年10月22日	神戸港の貿易額が当時国内一であり、その額は全国貿易額の1/3を占めていたことや、年々その貿易額が増加していたことが記されている新聞記事。	デジタルアーカイブ 新聞記事文庫
パネル	みなとの祭の国際大行進	写真	1967(昭和42)年 神戸市港湾局編『神戸開港100年の歩み』	現在の神戸まつりの源流の一つとなったみなとの祭の写真。昭和8年に伝統的な祭とは異なる市民創造型の祭として開催された。	社会科学系図書館 ほか
パネル	住吉川河南通路			戦後神戸は、住吉川の両側にダンプ専用通路を設けるなど个性的な方法で山の土砂を海へ運搬する大規模な埋め立て工事を数多く実施した。	
パネル	中突堤の現況			当時の中突堤の様子を撮影した写真。完成後間もないボートタワーの様子や数多くの船舶が停泊している様子が確認できる。	
パネル	摩耶埠頭の現況			竣工直前の摩耶埠頭と完成直後の摩耶大橋を撮影した写真。摩耶埠頭は当時の急激な貿易量の増加とそれに伴う船積み解消のために急ピッチで設立された。	
パネル	管理棟屋上から市街を望む	写真	1995(平成7)年1月17日	震災当日に現在の社会科学系図書館管理棟の屋上から神戸市街を撮影した写真。各所で火災が発生している様子が分かる。	震災文庫 デジタルギャラリー
パネル	第3突堤に掲げられている「よみがえれ神戸港！」の看板と、第4突堤先端から神戸大橋に伸びる仮橋(バイパスのような橋)	写真	1995(平成7)年9月29日 大木本美通撮影	阪神・淡路大震災では神戸港の港湾設備も大きな被害を受けた。しかしその後急ピッチでの復旧により震災1年後にはほぼ全面復旧を遂げた。	震災文庫 デジタルギャラリー
パネル	KOBE ルミナリエ：夢灯す、光の彫刻	チラシ	2016(平成28)年11月	神戸ルミナリエは、震災の発生した1995年の12月にはじめて開催されて以降、犠牲者の鎮魂と震災の記憶を語り継ぐため毎年開催されている。	震災文庫 デジタルギャラリー

# 「神戸大学附属図書館 デジタルアーカイブ」について

<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/da/>

本学の所蔵資料などの知的資産や教育・研究成果を電子化して、インターネットを通じて広く世界に発信するものです。今回の資料展の内容と関わりが深い主なコンテンツとしては次のものがあります。



Rare Books

稀観書・貴重書

デジタル化された本学所蔵の稀観書・貴重書をここで提供しています。その代表的なものとして、神戸開港期における居留地関連の行政文書や書翰を中心とした「神戸開港文書」があります。また、神戸の地図の画像も公開しています。



Sumida Maritime  
Materials Collection

住田文庫

海運研究者として知られた住田正一氏より、本学の前身である神戸高等商業学校に寄贈された、海事海運関係資料のコレクションです。江戸から明治期の資料を中心に、収集範囲は海事海運にとどまらず、商業や外国関係、歴史、地理、教育など、多岐にわたっています。



Newspaper Clippings Collection

新聞記事文庫

本学経済経営研究所が作成し所蔵している、商業・経済分野を中心に政治・社会・教育分野などにもまたがる新聞記事切抜帳のコレクションです。デジタルアーカイブでは明治末から昭和戦前期の新聞記事約30万件を公開していて、記事の全文検索が可能となっています。



Great Hanshin-Awaji Earthquake  
Disaster Materials Collection

震災文庫

阪神・淡路大震災に関連する資料のコレクションです。資料の形態は図書・雑誌のみならず、レジュメ・チラシ類、写真や音声・映像等も含まれ、網羅的に収集しています。また著作権者・団体の許諾のもと、資料のデジタル化公開を進めています。



編集・発行:神戸大学附属図書館 2017(平成29)年 10月 13日発行  
問い合わせ先: 情報サービス課 情報リテラシー係  
Tel: 078-803-5313 Fax: 078-803-7355 URL: <https://lib.kobe-u.ac.jp/>